

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：17501

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H04649

研究課題名(和文) バングラデシュにおけるポスト・カラ・アザール皮膚リーシュマニア症新規診断法の検証

研究課題名(英文) Development of preventive, therapeutic and diagnostic methods for arthropod-borne infections in Bangladesh.

研究代表者

小林 隆志 (Kobayashi, Takashi)

大分大学・医学部・教授

研究者番号：30380520

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,700,000円

研究成果の概要(和文)：バングラデシュにおけるPKDL、チクングニア熱およびジカ熱などの節足動物媒介感染症の予防法・治療法・診断法の開発を行なった。内臓型リーシュマニア症患者のPKDL発症に関するリスクファクターとして免疫反応、代謝および細胞内シグナル伝達等への関連が示唆されるmicroRNAの抽出に成功した。L.donovani検出用Dry LAMPのプライマーを最適化した。また、チクングニア熱を迅速診断するためのDry RT-LAMPを開発し、その有用性を現地で検証して良好な結果を得た。さらに、ジカ熱の増悪化因子を探索し、細胞侵入に重要なエンベロープタンパク質のアミノ酸を同定した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

バングラデシュにおけるリーシュマニア症、チクングニア熱およびジカ熱などの節足動物が媒介する感染症について、国際下痢症研究センター(icddr,b.)のMondal博士とHaque部長と国際共同研究を推進し、新たな診断法の開発や病原性因子の解析が進んだ。本研究期間中にCOVID-19の世界的な大流行に見舞われ、改めて感染症研究の重要性が認識されるとともに、感染症に国境はなく国際協力が重要であることも再認識された。本研究により、節足動物媒介感染症に対する洞察を深める重要な知見が得られ、その学術的および社会的意義は大きいといえる。

研究成果の概要(英文)：The development of preventive, therapeutic and diagnostic methods for arthropod-borne infectious diseases such as PKDL, chikungunya fever and Zika fever in Bangladesh has been carried out. (i) MicroRNAs were successfully extracted as risk factors for the development of PKDL in patients with visceral leishmaniasis, which are suggested to be related to immune response, metabolism and intracellular signal transduction. (ii) Primers of Dry LAMP for L. donovani detection were optimized. In addition, (iii) Dry RT-LAMP for rapid diagnosis of chikungunya fever was developed and its usefulness was verified in the field with good results. Furthermore, (iv) we searched for exacerbating factors of Zika fever and identified an amino acid of envelope protein responsible for cell invasion.

研究分野：感染免疫学

キーワード：バングラデシュ PKDL 診断技術 節足動物媒介感染症 チクングニア熱 ジカ熱

## 1. 研究開始当初の背景

節足動物が媒介する感染症は全感染症の17%以上を占め、年間70万人以上が死亡していると考えられている。蚊によって媒介されるウイルス感染症のデング熱は年間9600万人が感染し、原虫感染症のマラリアでは年間40万人が死に至るといわれている。これらの疾患は特效薬やワクチンが未だ開発されていないものが多いが、適切な予防法を講ずることで防ぐことが可能である。従って、治療薬の開発と同時に診断方法の確立と改良が重要な鍵となる。

リーシュマニア症は世界中で毎年100万人が罹患し、そのうち、2~3万人が死亡している寄生虫病で、サシチョウバエという昆虫によって媒介される。皮膚型、皮膚粘膜型および内臓型リーシュマニア症(VL)のうちVLは別名カラ・アザール病と呼ばれ、未治療のまま放置すると95%が死に至る。VLは、*L. donovani*、*L. infantum*や*L. chagasi*の3種に起因し、その90%はバングラデシュ、インド、スーダン、南スーダン、エチオピア、ブラジルの6カ国に集中している(図1)。VLは、不規則な発熱、体重減少、肝脾腫、貧血、るいそうなどを伴い、治療にはスチボグルコン酸ナトリウム(SSG)やミルテフォシン(MF)が投与される。しかし、全身症状が寛解しても半年から1年以上経過後に、Post-kala-azar-dermal leishmaniasis(PKDL)と呼ばれる皮疹が5~10%の患者に出現する。PKDLは皮膚以外では無症状であるが、患者は*L. donovani*の保虫宿主であるため、VLの制圧にとってPKDLのコントロールは極めて重要である。PKDLは皮膚に局在するリーシュマニア原虫に対する宿主応答の結果であろうと考えられているがそのメカニズムは不明である。

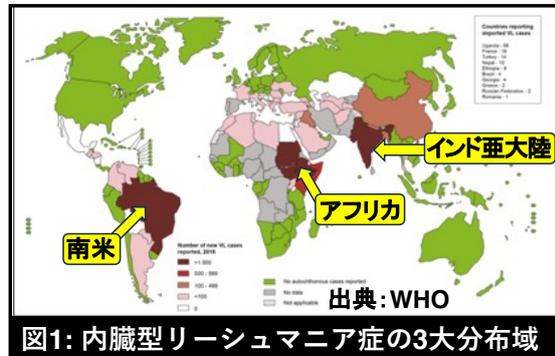


図1: 内臓型リーシュマニア症の3大分布域

我々は平成26~28年度基盤研究B(海外学術調査)にてバングラデシュの国際下痢症研究センター(icddr,b.)のMondal博士とHaque部長の協力のもとPKDL患者のサンプル集積と解析および*L. donovani*の新規診断法の開発を行ってきた。治療を受けた患者の中で、PKDLを発症する患者とそうでない患者の間にはどのような宿主免疫応答の違いがあるか、また、それらの患者の間で用いた治療薬の違いによってPKDLの発症率に差があるのか、あるとすれば薬剤が宿主に与える免疫修飾作用の違いは何なのかを解明することが重要である。そこで、バングラデシュに赴き、VLの制圧を目指して、*L. donovani*の持続感染によるPKDLの発症を規定するリスクファクターについて海外学術調査を行うこととした。また、VLの制圧にとって流行地におけるPKDLの発症やVLの再発を的確に診断することは、感染の拡大防止に必須である。我々は、*L. donovani*の診断ツールとしてrecombinase polymerase amplification(RPA)法とDry Loop-Mediated Isothermal Amplification(LAMP)法の開発に取り組んできた。これらの新規診断法の有用性も現地でも実証することとした。

一方、チクングニア熱はヤブカ属の蚊によって媒介されるチクングニアウイルスが引き起こす急性熱性疾患で、発疹と激しい関節痛を特徴とし、慢性的な関節痛によるQOLの低下や生産性の低下が大きな問題となっている。これまでのところ、有効なワクチンや予防薬は開発されておらず、虫除け対策が唯一の予防法とされる。南アジア、東南アジア、およびアフリカで散発的に流行がみられるが、2017年にバングラデシュでチクングニア熱の大流行が起きたときは迅速診断法が十分に確立しておらず臨床症状による診断に頼らざるを得ない状況であった。そこで、Mondal博士と共同で、チクングニアウイルスを検出するDry Loop-Mediated Isothermal Amplification(LAMP)法の開発に取り組むこととした。

さらに、ジカウイルスはヤブカ属の蚊によって媒介されジカ熱を引き起こすが、妊婦に感染すると胎児の小頭症のリスクが増加することが社会問題となった。さらに、成人でもギランバレー症候群などの自己免疫疾患や脊髄症及び脊髄炎を含む神経学的な合併症のリスク増加が報告されている。近年、多発性硬化症の患者の中樞神経からジカウイルスが検出されたが、ジカウイルス感染と神経変性疾患との関連は不明である。そこで、実験動物を用いた多発性硬化症モデルにジカウイルスを感染させ病態への影響を調べることにした。

## 2. 研究の目的

本研究は、バングラデシュにおける節足動物媒介感染症の予防法・治療法・診断法の開発を目的とする。具体的には、バングラデシュにおいて、①内臓型リーシュマニア症患者のPKDL発症の原因となるリスクファクターの集積と解析を行い、②新規迅速診断キット(Dry LAMP)の現地での有用性を検証する。また、③チクングニア熱の新規迅速診断キット(Dry RT-LAMP)も開発しその有用性を検証する。さらに、④ジカ熱の増悪化因子の探求を行う。

### 3. 研究の方法

#### (1) PKDL の疫学調査 皮膚サンプルの採取法

サンプルは、皮膚パンチ生検法で採取した。滅菌後、リドカイン 1% とエピネフリン 1:100,000 で生検部位を麻酔した。次に、直径 3mm の皮膚パンチ刃を部位に当て、刃が皮膚の表皮に突き刺さるまで圧力をかけ、鉗子で芯のある皮膚の真皮をつかみ、芯を引き上げて余分な真皮を露出させた。本手順を 3 回繰り返し、3 本の皮膚サンプルを得た。1 本は DNAzo1®1mL に入れ-20°C、もう 1 本はパラホルムアルデヒド 1mL に入れ 4°C、もう 1 本は NET バッファー 1mL に入れ-20°C にて保存した。最後の 1 枚は、ハンセン病と真菌感染症の鑑別診断に使用した。*M. leprae* または真菌が検出された場合、患者は本研究から除外された。

病理組織学的に、黄斑部病変はリンパ球、組織球の血管周囲浸潤を示す。LD body はほとんど見られず、表皮のすぐ下に認められる。乳頭状病変では、表皮から正常な真皮コラーゲンの帯 (Grenz zone) を隔てて真皮の上半分に、毛包の栓塞、真皮の血管周囲および毛包周囲の浸潤が密に認められる。結節性病変では、真皮のびまん性浸潤が認められる。後述するように、本研究では全例が黄斑部病変を呈していた。そのため、サンプリングの深さは真皮上半分の 2mm 程度にとどまり、皮下脂肪組織には到達していない。次いで、皮膚病変の面積を測定した「Graphical Score (GS)」。

#### (2) Dry Loop-Mediated Isothermal Amplification (LAMP) 法

プライマーは、PrimerExplorer V5 ソフトウェアを用いてデザインした。LAMP 反応液 (25  $\mu$ L) には 1xLAMP buffer、7mM MgSO<sub>4</sub>、1.4mM dNTPs、8U *Bst* DNA polymerase、Indicator (HNB+GelGreen)、0.2  $\mu$ M Treharose に特異的 LAMP primer (表 1) (1.6  $\mu$ M FIP/BIP、0.2  $\mu$ M F3/B3、0.4-0.8  $\mu$ M FLP/BLP) が含まれ、さらに RT-LAMP 反応液には、4U RNase inhibitor と 0.6U AMV reverse transcriptase が含まれる。2  $\mu$ L の病原体由来サンプルを template として反応液に加え、59°C~63°C の間の一定の温度で 1 時間以上インキュベートし、その間、随時反応を観察した。観察は、10 分間隔で写真撮影を行った。一部は、リアルタイム PCR 装置を用いて 90 秒間隔で蛍光強度を測定した。

Primer name	Primer Sequence
<b>For <i>Leishmania donovani</i></b>	
LDS <sub>set</sub> 5-F3	5'-GCGTATATTAATGCTGTTGCT
LDS <sub>set</sub> 5-B3	5'-GTAAAAATCACGGACGCC
LDS <sub>set</sub> 5-FIP	5'-CAAATCCGACATGGACGGGACTTAAAGGGTTCGTAGTTGAAC
LDS <sub>set</sub> 5-BIP	5'-CTTGACGCCGTGAACATTCGTAATCAGGAAAGGAACCACT
LDS <sub>set</sub> 5-FLP	5'-ACCAGGAACAACCTGCACA
LDS <sub>set</sub> 5-BLP	5'-CCCGTGTTCCTGTTCTTT
<b>For <i>Chikungunya virus</i></b>	
CHIKV-F3	5'-CACACTGTGAGCGCGTAC
CHIKV-B3	5'-GACGGTTTTGTATTCCGACG
CHIKV-FIP	5'-AGCCCGTCTGTGACTAGAGTtttACACGTAACAGTGATCCCGA
CHIKV-BIP	5'-ACAGCCCCATGGTACTGGAGAttTCAAGCGATAGCGTTGGC
CHIKV-FLP	5'-ACGGTACTCCCACCGTGT
CHIKV-BLP	5'-GGAGCTACTGTCAGTCATTTG

表 1 : LAMP primer の塩基配列

#### (3) ジカウイルス感染と実験的自己免疫性脳脊髄炎 (EAE)

1 週間おきにジカウイルス (1 X 10<sup>9</sup>PFU) をマウスに 3 回皮下投与した後、実験的自己免疫性脳脊髄炎 (Experimental autoimmune encephalomyelitis: EAE) を誘導するために、結核菌 (2.2  $\mu$ g/ $\mu$ l) を補充した CFA で乳化したミエリンオリゴデンドロサイト糖タンパク質 (MOG) ペプチド (aa 35-55: MEVGGWYRSPFSRVHLYRNGK) 160  $\mu$ g を皮下投与した。また、百日咳毒素 (400ng) を MOG ペプチド免疫日と 2 日後に腹腔内投与した。以下の臨床的スコアを評価した。0: 無症状、1: 尾の張りの低下、2: 尾の引きずり、3: 運動失調、4: 後肢の麻痺、5: 四肢麻痺、および 6: 死亡。採点は 24 時間ごとに行った。

#### (4) 統計解析

データは、平均値  $\pm$  SEM で示した。GraphPad Prism7 ソフトウェアを用いて 2 群間の単変量解析を行い、有意差を Mann-Whitney U test で検定した。P < 0.05 を統計的に有意とみなした。

### 4. 研究成果

#### (1) PKDL の疫学調査

本研究は、バングラデシュで最もリーシュマニア症が流行するマイメンシン地区の Muktagacha Upazila Health Complex で実施した。1994 年から 2013 年まで、バングラデシュは 109,266 件の VL 症例を報告し、そのうち 53,582 件 (49.04%) がマイメンシン地区で発生した。2013 年の PKDL 症例については、国全体の 325 症例のうち、同地区が 240 症例を占めた。

医療記録によると、Muktagacha Upazila Health Complex は 2000 年から 2011 年にかけて 1,467

人の VL 患者を治療している。フィールドスタッフは、全 VL 患者自宅を訪問した。過去の VL 患者に皮膚病変がある場合、彼らは「PKDL 疑い患者」とみなされた。rK39 テストが陽性であれば、ヘルスセンターを訪問するように要請した。本人または 18 歳未満の被験者の保護者から書面による同意が得られた場合のみ、本研究に参加した。医師が健康診断を行い、「PKDL の可能性が高い患者」を選定した。その際、脾腫を呈する患者、妊娠している患者、試験中の安全性に影響を及ぼす可能性のある患者、試験手順に従えない患者はこの試験から除外された。

その結果、PKDL の疑いがある患者 65 人を発見し、そのうち 43 人が rK39 検査で陽性となり、ヘルスセンターへ紹介された。健康診断の結果、3 名が除外され、残りの 40 名が PKDL の可能性が高いと判断された。

40 名全員が治療前に皮膚サンプルとスコアデータを提供し、全員が確定 PKDL 患者と診断され、12 週間の miltefosine レジメンを完了し、治療後に皮膚サンプルとスコアデータを提供した。12 ヶ月後のフォローアップでは、2 名が脱落した。これら PKDL 患者の検体を用いて、VL 患者が PKDL を発症する原因となるリスクファクターの解析を行った。その結果、患者群において免疫反応、代謝および細胞内シグナル伝達等への関連が示唆される microRNA の発現が、8 種類上昇し、10 種類低下していることが明らかになった。

### (2) *L. donovani* の Dry LAMP 法

内臓型リーシュマニア症 (VL) の新規迅速診断法を確立するため、*L. donovani* に対する Dry LAMP 法の開発に取り組んだ。まず、実験室レベルで *L. donovani* から抽出したゲノムを用いて検定を行い良好な検出感度を確認した後、流行地であるバングラデシュのマイメイシンにおいてこの検出キットを用いた患者検体の診断を実施した (図 2A)。その結果、現地での簡易な実験装置を用いても患者検体から良好な結果が得られることが確認できた。従って、日本で調製し乾燥させた試薬の活性が現地でも維持されており、この検出キットが現地での診断とスクリーニングに有用であることが示唆された。しかし、Dry LAMP 作製後 1 年経過した検出キットでは非特異的な増幅が認められることが明らかとなり、この検出キットの安定性を改良する必要性が生じた。そこで、*L. donovani* のキネトプラストに対する新規 LAMP 用プライマーを設計し直し、実験室レベルで *L. donovani* から抽出したゲノムを用いて、その有用性を検討した。5 種類のプライマーセットを作製し、通常の Wet LAMP を試行し検出感度と特異性を調べたところ、特異性の高い 2 種類のプライマーセットを見出した。そのうちの 1 つについて詳細な解析を行ったところ、検出感度は、10 分以内に  $10^4$  の原虫を、40 分以内に  $10^3$  の原虫を、50 分以内に  $10^2$  の原虫を、60 分以内に  $10^1$  の原虫を検出できることが確認できた。さらに、リーシュマニア原虫を BALB/c マウスに感染させ 4 週後の皮膚病巣から得られたサンプルを用いて検定を行ったところ、30 分以内にリーシュマニア原虫を検出できることが確認できた (図 2B)。2020 年以降、COVID-19 の世界的大流行により海外渡航が制限された影響で、現地でのこの検出キットの有用性の確認までには至っていない。

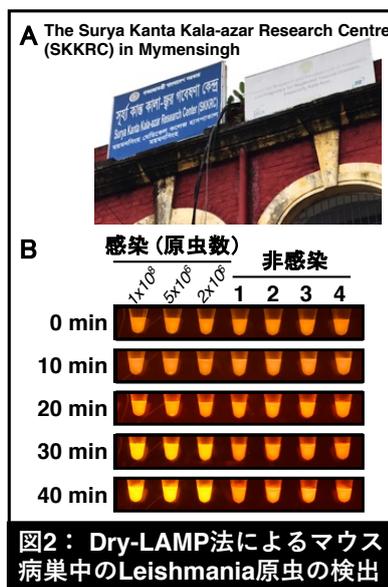


図2: Dry-LAMP法によるマウス病巣中のLeishmania原虫の検出

### (3) チクングニアウイルスの Dry RT-LAMP 法

チクングニア熱の新規迅速診断法を確立するため、チクングニアウイルスに対する Dry RT-LAMP 法の開発に取り組んだ。チクングニアウイルスの E1 遺伝子および NS1 遺伝子領域に対するプライマーセットを多数合成し、それぞれのプライマーの感度と特異性を比較した。その中で最適なプライマーセットを抽出し、さらに詳細な解析を行ったところ、検出感度は、30 分以内に 8PFU のウイルスを検出できること、特異性は、4 種類のチクングニアウイルスには全て反応し、ジカウイルス、デングウイルス、日本脳炎ウイルスおよびロスリバーウイルスには反応しないことがわかった。また、チクングニアウイルスを感染させたマウスの血清にも反応し (図 3)、検出感度は通常の RT-PCR 法と同等以上であった。これを乾燥させた Dry RT-LAMP を作製し、反応を試みたところ、検出感度は 200PFU に低下した。しかしながら、バングラデシュでチクングニア熱患者の検体を用いて試験したところ、9 割の検体を検出することができた。

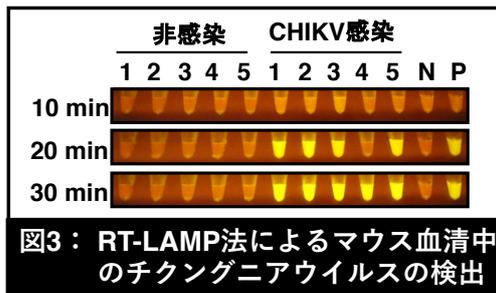


図3: RT-LAMP法によるマウス血清中のチクングニアウイルスの検出

#### (4) ジカウイルスの病原性因子の探索

ジカ熱は蚊の刺咬によって感染したジカウイルスによって引き起こされるが、感染者の8割は不顕性感染となる。ジカウイルスのアフリカ株 (MR766) とアジア株 (PRVABC59) をマウスに感染させた実験では、アフリカ株の病原性が高いことが示された。培養細胞を用いた実験でもアフリカ株の感染性が高いことが示された。そこで、ジカ熱の病原性を規定する因子を解明するため、アジア株及び、アフリカ株の前駆膜 (prM) とエンベロープタンパク (E) を有する 1 回感染性ウイルス様粒子 (SRIPs) を作製し、各種細胞株へ感染実験を行った。その結果、アフリカ株の prM+E を有する SRIPs の細胞侵入能が高いことが明らかになった。さらに、1 アミノ酸置換変異 SRIPs を作製して、この細胞侵入能を規定するアミノ酸を絞り込み、エンベロープタンパク質の N 末端側近傍に重要なアミノ酸が存在することを見出した (図 4)。

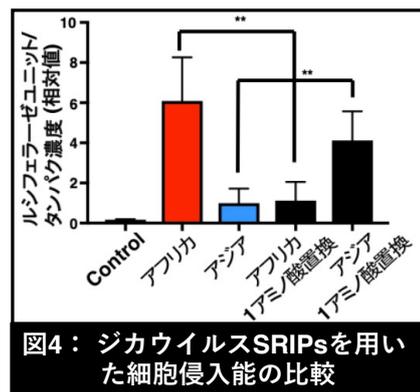


図4：ジカウイルスSRIPsを用いた細胞侵入能の比較

#### (5) ジカウイルス感染と多発性硬化症

ジカウイルス感染が多発性硬化症の病態におよぼす影響を明らかにするため、マウスに予めジカウイルスを感染させ、その後、MOG ペプチドをアジュバントと共に接種して EAE を誘導した。EAE の重症度を表すクリニカルスコアは、非感染マウスに比べ、ジカウイルス感染マウスで有意に増悪化し (図 5)、体重減少も顕著であった。また、病理解析によって感染マウスの中枢神経には、より重度の細胞浸潤と脱髄が起きることが明らかになった。さらに、ジカウイルス感染によって、中枢でケモカインの発現が亢進すること、それによって EAE の病態形成に重要な Th17 細胞の中枢への浸潤が促進されることが示唆された。これらの結果は、ジカウイルス感染と神経変性疾患との関連を裏付ける新たな知見だと言える。

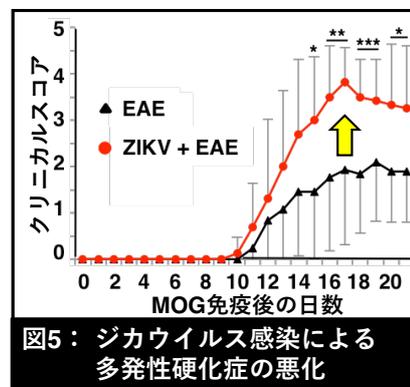


図5：ジカウイルス感染による多発性硬化症の悪化

#### (6) 結語

本研究により、リーシュマニア症、チクングニア熱およびジカ熱などの節足動物が媒介する感染症について、バングラデシュの国際下痢症研究センター (icddr, b.) の Mondal 博士と Haque 部長との協力で、新たな診断法の開発や、病原性因子の解析が進んだ。本研究期間中に COVID-19 のパンデミックに見舞われ、改めて感染症研究の重要性が認識された。また、感染症に国境はなく国際協力の重要性も再認識されたといえる。今後も、海外学術研究を通じて感染症に対する知見の収集・分析・共有を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計57件（うち査読付論文 39件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 22件）

1. 著者名 Ozaka Sotaro, Koder Takamoto, Tsutsumi Koshiro, Fukuda Masahide, Iwao Masao, Hirashita Yuka, Takahashi Haruhiko, Fukuda Kensuke, Okamoto Kazuhisa, Arakawa Mie, Ogawa Ryo, Endo Mizuki, Mizukami Kazuhiro, Okimoto Tadayoshi, Kamiyama Naganori, Kodama Masaaki, Kobayashi Takashi, Murakami Kazunari	4. 巻 62
2. 論文標題 Acute Cholecystitis Associated with Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis That Responded to Glucocorticoid Therapy	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 1501 ~ 1506
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.0437-22	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sachi Nozomi, Kamiyama Naganori, Saechue Benjawan, Ozaka Sotaro, Dewayani Astri, Ariki Shimpei, Chalalai Thanyakorn, Soga Yasuhiro, Fukuda Chiaki, Kagoshima Yomei, Ekronarongchai Supanuch, Kobayashi Takashi	4. 巻 641
2. 論文標題 CCL20/CCR6 chemokine signaling is not essential for pathogenesis in an experimental autoimmune encephalomyelitis mouse model of multiple sclerosis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 123 ~ 131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2022.11.088	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ariki Shimpei, Ozaka Sotaro, Sachi Nozomi, Chalalai Thanyakorn, Soga Yasuhiro, Fukuda Chiaki, Kagoshima Yomei, Ekronarongchai Supanuch, Mizukami Kazuhiro, Kamiyama Naganori, Murakami Kazunari, Kobayashi Takashi	4. 巻 28
2. 論文標題 GM-CSF-producing CCR2+CCR6+ Th17 cells are pathogenic in dextran sodium sulfate-induced colitis model in mice	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Genes to Cells	6. 最初と最後の頁 267 ~ 276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/gtc.13008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Amada K, Hijiya N, Ikarimoto S, Yanagihara K, Hanada T, Hidano S, Kurogi S, Tsukamoto Y, Nakada C, Kinoshita K, Hirashita Y, Uchida T, Shin T, Yada K, Hirashita T, Kobayashi T, Murakami K, Inomata M, Shirao K, Aoki M, Takekawa M, Moriyama M.	4. 巻 114
2. 論文標題 Involvement of clusterin expression in the refractory response of pancreatic cancer cells to a MEK inhibitor	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Cancer Science	6. 最初と最後の頁 2189 ~ 2202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.15735	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hashizaki Emi, Sasai Miwa, Okuzaki Daisuke, Nishi Tsubasa, Kobayashi Takashi, Iwanaga Shiroh, Yamamoto Masahiro	4. 巻 14
2. 論文標題 Toxoplasma IWS1 Determines Fitness in Interferon- $\gamma$ -Activated Host Cells and Mice by Indirectly Regulating ROP18 mRNA Expression	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 mBio	6. 最初と最後の頁 e0325622
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1128/mbio.03256-22	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Dewayani Astri, Kamiyama Naganori, Sachi Nozomi, Ozaka Sotaro, Saechue Benjawan, Ariki Shimpei, Goto Mizuki, Chalalai Thanyakorn, Soga Yasuhiro, Fukuda Chiaki, Kagoshima Yomei, Maekawa Yoichi, Kobayashi Takashi	4. 巻 613
2. 論文標題 TRAF6 signaling pathway in T cells regulates anti-tumor immunity through the activation of tumor specific Th9 cells and CTLs	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 26 ~ 33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2022.04.125	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ozaki T, Kamiyama N, Saechue B, Soga Y, Gotoh R, Nakayama T, Fukuda C, Dewayani A, Chalalai T, Ariki S, Ozaka S, Sonoda A, Hirose H, Gendo Y, Noguchi K, Sachi N, Hidano S, Maeshima K, Gotoh K, Masaki T, Ishii K, Osada Y, Shibata H, Kobayashi T.	4. 巻 27
2. 論文標題 Comprehensive lipidomics of lupus-prone mice using LC-MS/MS identifies the reduction of palmitoylethanolamide that suppresses TLR9-mediated inflammation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Genes to Cells	6. 最初と最後の頁 493 ~ 504
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/gtc.12944	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takada Ichiro, Hidano Shinya, Takahashi Sayuri, Yanaka Kaori, Ogawa Hidesato, Tsuchiya Megumi, Yokoyama Atsushi, Sato Shingo, Ochi Hiroki, Nakagawa Tohru, Kobayashi Takashi, Nakagawa Shinichi, Makishima Makoto	4. 巻 298
2. 論文標題 Transcriptional coregulator Ess2 controls survival of post-thymic CD4+ T cells through the Myc and IL-7 signaling pathways	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Biological Chemistry	6. 最初と最後の頁 102342 ~ 102342
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jbc.2022.102342	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ozaka S, Sonoda A, Arika S, Minata M, Kamiyama N, Hidano S, Sachi N, Ito K, Kudo Y, Dewayani A, Chalalai T, Ozaki T, Soga Y, Fukuda C, Mizukami K, Ishizawa S, Nishiyama M, Fujitsuka N, Mogami S, Kubota K, Murakami K, Kobayashi T.	4. 巻 17
2. 論文標題 Saireito, a Japanese herbal medicine, alleviates leaky gut associated with antibiotic-induced dysbiosis in mice	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0269698
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0269698	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ozaka Sotaro, Kobayashi Takashi, Mizukami Kazuhiro, Murakami Kazunari	4. 巻 28
2. 論文標題 COVID-19 vaccination and liver disease	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 World Journal of Gastroenterology	6. 最初と最後の頁 6791 ~ 6810
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3748/wjg.v28.i48.6791	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ozaka Sotaro, Koder Takamoto, Arika Shimpei, Kobayashi Takashi, Murakami Kazunari	4. 巻 101
2. 論文標題 Acute pancreatitis soon after COVID-19 vaccination	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Medicine	6. 最初と最後の頁 e28471 ~ e28471
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MD.00000000000028471	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Karmakar Subir, Volpedo Greta, Zhang Wen-Wei, Lypaczewski Patrick, Ismail Nevien, Oliveira Fabiano, Oristian James, Meneses Claudio, Gannavaram Sreenivas, Kamhawi Shaden, Hamano Shinjiro, Valenzuela Jesus G., Matlashewski Greg, Satoskar Abhay R., Dey Ranadhir, Nakhasi Hira L.	4. 巻 7
2. 論文標題 Centrin-deficient <i>Leishmania mexicana</i> confers protection against Old World visceral leishmaniasis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 npj Vaccines	6. 最初と最後の頁 157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41541-022-00574-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Alshaweesh Jalal, Nakamura Risa, Tanaka Yuka, Hayashishita Mizuki, Musa Abu, Kikuchi Mihoko, Inaoka Daniel Ken, Hamano Shinjiro	4. 巻 10
2. 論文標題 <i>Leishmania major</i> Strain-Dependent Macrophage Activation Contributes to Pathogenicity in the Absence of Lymphocytes	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Microbiology Spectrum	6. 最初と最後の頁 e0112622
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1128/spectrum.01126-22	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ismail Nevien, Karmakar Subir, Bhattacharya Parna, Sepahpour Telly, Takeda Kazuyo, Hamano Shinjiro, Matlashewski Greg, Satoskar Abhay R., Gannavaram Sreenivas, Dey Ranadhir, Nakhasi Hira L.	4. 巻 13
2. 論文標題 <i>Leishmania Major</i> Centrin Gene-Deleted Parasites Generate Skin Resident Memory T-Cell Immune Response Analogous to Leishmanization	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Immunology	6. 最初と最後の頁 864031
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fimmu.2022.864031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Volpedo G, Pacheco-Fernandez T, Holcomb EA, Zhang WW, Lypaczewski P, Cox B, Fultz R, Mishan C, Verma C, Huston RH, Wharton AR, Dey R, Karmakar S, Oghumu S, Hamano S, Gannavaram S, Nakhasi HL, Matlashewski G, Satoskar AR.	4. 巻 7
2. 論文標題 Centrin-deficient <i>Leishmania mexicana</i> confers protection against New World cutaneous leishmaniasis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 npj Vaccines	6. 最初と最後の頁 32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41541-022-00449-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ozaka Sotaro, Kobayashi Takashi, Murakami Kazunari	4. 巻 88
2. 論文標題 Comment on "A case of acute necrotising pancreatitis following the second dose of Pfizer BioNTech COVID 19 mRNA vaccine"	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 British Journal of Clinical Pharmacology	6. 最初と最後の頁 2449 ~ 2449
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/bcp.15159	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ozaka S, Sonoda A, Ariki S, Kamiyama N, Hidano S, Sachi N, Ito K, Kudo Y, Minata M, Saechue B, Dewayani A, Chalalai T, Soga Y, Takahashi Y, Fukuda C, Mizukami K, Okumura R, Kayama H, Murakami K, Takeda K, Kobayashi T.	4. 巻 26
2. 論文標題 Protease inhibitory activity of secretory leukocyte protease inhibitor ameliorates murine experimental colitis by protecting the intestinal epithelial barrier	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Genes to Cells	6. 最初と最後の頁 807 ~ 822
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/gtc.12888	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hidano Shinya, Mizukami Kazuhiro, Yahiro Takaaki, Shirakami Kohei, Ito Hideyuki, Ozaka Sotaro, Ariki Shimpei, Saechue Benjawan, Dewayani Astri, Chalalai Thanyakorn, Soga Yasuhiro, Goto Mizuki, Sonoda Akira, Ozaki Takashi, Sachi Nozomi, Kamiyama Naganori, Nishizono Akira, Murakami Kazunari, Kobayashi Takashi	4. 巻 74
2. 論文標題 Analysis of the Prevalence and Species of Anisakis nematode in Sekisaba, Scomber japonicus Caught in Coastal Waters off Saganoseki, Oita in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 387 ~ 391
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7883/yoken.JJID.2020.859	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kurogi Shusaku, Hijiya Naoki, Hidano Shinya, Sato Seiya, Uchida Tomohisa, Tsukamoto Yoshiyuki, Nakada Chisato, Yada Kazuhiro, Hirashita Teijiro, Inomata Masafumi, Murakami Kazunari, Takahashi Naohiko, Kobayashi Takashi, Moriyama Masatsugu	4. 巻 88
2. 論文標題 Downregulation of ZNF395 Drives Progression of Pancreatic Ductal Adenocarcinoma through Enhancement of Growth Potential	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pathobiology	6. 最初と最後の頁 374 ~ 382
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000514593	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morisaki Ikuko, Shiraishi Hiroshi, Fujinami Hiroyuki, Shimizu Nobuyuki, Hikida Takatoshi, Arai Yuji, Kobayashi Takashi, Hanada Reiko, Penninger Josef M., Fujiki Minoru, Hanada Toshikatsu	4. 巻 570
2. 論文標題 Modeling a human CLP1 mutation in mouse identifies an accumulation of tyrosine pre-tRNA fragments causing pontocerebellar hypoplasia type 10	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 60 ~ 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2021.07.036	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Karmakar S, Ismail N, Oliveira F, Oristian J, Zhang WW, Kaviraj S, Singh KP, Mondal A, Das S, Pandey K, Bhattacharya P, Volpedo G, Gannavaram S, Satoskar M, Satoskar S, Sastry RM, Oljuskin T, Sepahpour T, Meneses C, Hamano S, Das P, Matlashewski G, Singh S, Kamhawi S, Dey R, Valenzuela JG, Satoskar A, Nakhasi HL.	4. 巻 4
2. 論文標題 Preclinical validation of a live attenuated dermatropic Leishmania vaccine against vector transmitted fatal visceral leishmaniasis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Communications Biology	6. 最初と最後の頁 929
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s42003-021-02446-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Saechue B, Kamiyama N, Wang Y, Fukuda C, Watanabe K, Soga Y, Goto M, Dewayani A, Ariki S, Hirose H, Ozaka S, Sachi N, Hidano S, Faisal K, Chowdhury R, Anik Ashfaq Khan M, Hossain F, Ghosh P, Shirin T, Mondal D, Murakami K, Kobayashi T.	4. 巻 25
2. 論文標題 Development of a portable reverse transcription loop mediated isothermal amplification system to detect the E1 region of Chikungunya virus in a cost effective manner	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Genes to Cells	6. 最初と最後の頁 615-625
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/gtc.12797	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ratsada Praphasawat, Hijiya Naoki, Hidano Shinya, Tsukamoto Yoshiyuki, Nakada Chisato, Uchida Tomohisa, Kobayashi Takashi, Moriyama Masatsugu	4. 巻 528
2. 論文標題 DUSP4 is involved in the enhanced proliferation and survival of DUSP4-overexpressing cancer cells	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 586 ~ 593
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2020.05.140	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Runtuwene Lucky R., Kawashima Shuichi, Pijoh Victor D., Tuda Josef S. B., Hayashida Kyoko, Yamagishi Junya, Sugimoto Chihiro, Nishiyama Shoko, Sasaki Michihito, Orba Yasuko, Sawa Hirofumi, Takasaki Tomohiko, James Anthony A., Kobayashi Takashi, Eshita Yuki	4. 巻 21
2. 論文標題 The Lethal(2)-Essential-for-Life [L(2)EFL] Gene Family Modulates Dengue Virus Infection in <i>Aedes aegypti</i>	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Molecular Sciences	6. 最初と最後の頁 7520 ~ 7520
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms21207520	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tada Kazuhiro, Ohta Masayuki, Hidano Shinya, Watanabe Kiminori, Hirashita Teijiro, Oshima Yusuke, Fujnaga Atsuro, Nakanuma Hiroaki, Masuda Takashi, Endo Yuichi, Takeuchi Yu, Iwashita Yukio, Kobayashi Takashi, Inomata Masafumi	4. 巻 50
2. 論文標題 Fucosyltransferase 8 plays a crucial role in the invasion and metastasis of pancreatic ductal adenocarcinoma	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Surgery Today	6. 最初と最後の頁 767 ~ 777
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00595-019-01953-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Zhang WW, Karmakar S, Gannavaram S, Dey R, Lypaczewski P, Ismail N, Siddiqui A, Simonyan V, Oliveira F, Coutinho-Abreu IV, DeSouza-Vieira T, Meneses C, Oristian J, Serafim TD, Musa A, Nakamura R, Saljoughian N, Volpedo G, Satoskar M, Satoskar S, Dagur PK, McCoy JP, Kamhawi S, Valenzuela JG, Hamano S, Satoskar AR	4. 巻 11
2. 論文標題 A second generation leishmanization vaccine with a markerless attenuated <i>Leishmania major</i> strain using CRISPR gene editing	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nature Communications	6. 最初と最後の頁 3461
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41467-020-17154-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Fujinami Hiroyuki, Shiraishi Hiroshi, Hada Kazumasa, Inoue Masanori, Morisaki Ikuko, Higa Ryoko, Shin Toshitaka, Kobayashi Takashi, Hanada Reiko, Penninger Josef M., Mimata Hiromitsu, Hanada Toshikatsu	4. 巻 525
2. 論文標題 CLP1 acts as the main RNA kinase in mice	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 129 ~ 134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2020.02.066	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hasegawa Mitsuko, the DeWorm3 Project Team, Pilotte Nils, Kikuchi Mihoko, Means Arianna R., Papaiakevou Marina, Gonzalez Andrew M., Maasch Jacqueline R. M. A., Ikuno Hiroshi, Sunahara Toshihiko, Asbjornsdottir Kristjana H., Watson Judd L., Williams Steven A., Hamano Shinjiro	4. 巻 13
2. 論文標題 What does soil-transmitted helminth elimination look like? Results from a targeted molecular detection survey in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Parasites & Vectors	6. 最初と最後の頁 6-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13071-019-3875-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Musa Md. Abu, Nakamura Risa, Hena Asma, Varikuti Sanjay, Nakhasi Hira L., Goto Yasuyuki, Satoskar Abhay R., Hamano Shinjiro	4. 巻 13
2. 論文標題 Lymphocytes influence Leishmania major pathogenesis in a strain-dependent manner	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS Neglected Tropical Diseases	6. 最初と最後の頁 e0007865
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pntd.0007865	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mi-ichi Fumika, Ishikawa Takeshi, Tam Vo Kha, DeLoer Sharmina, Hamano Shinjiro, Hamada Tsuyoshi, Yoshida Hiroki	4. 巻 13
2. 論文標題 Characterization of Entamoeba histolytica adenosine 5'-phosphosulfate (APS) kinase; validation as a target and provision of leads for the development of new drugs against amoebiasis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS Neglected Tropical Diseases	6. 最初と最後の頁 e0007633
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pntd.0007633	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chadeka Evans Asena, Nagi Sachiyo, Cheruiyot Ngetich B., Bahati Felix, Sunahara Toshihiko, Njenga Sammy M., Hamano Shinjiro	4. 巻 47
2. 論文標題 A high-intensity cluster of Schistosoma mansoni infection around Mbita causeway, western Kenya: a confirmatory cross-sectional survey	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Tropical Medicine and Health	6. 最初と最後の頁 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s41182-019-0152-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takeuchi Tomoharu, Tamura Mayumi, Ishiwata Kenji, Hamasaki Megumi, Hamano Shinjiro, Arata Yoichiro, Hatanaka Tomomi	4. 巻 29
2. 論文標題 Galectin-2 suppresses nematode development by binding to the invertebrate-specific galactose 1-4fucose glyco-epitope	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glycobiology	6. 最初と最後の頁 504 ~ 512
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/glycob/cwz022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kanaya Takashi, Sakakibara Sayuri, Jinnohara Toshi, Hachisuka Masami, Tachibana Naoko, Hidano Shinya, Kobayashi Takashi, Kimura Shunsuke, Iwanaga Toshihiko, Nakagawa Tomoo, Katsuno Tatsuro, Kato Naoya, Akiyama Taishin, Sato Toshiro, Williams Ifor R., Ohno Hiroshi	4. 巻 215
2. 論文標題 Development of intestinal M cells and follicle-associated epithelium is regulated by TRAF6-mediated NF- B signaling	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 501 ~ 519
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1084/jem.20160659	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takada Ichiro, Tsuchiya Megumi, Yanaka Kaori, Hidano Shinya, Takahashi Sayuri, Kobayashi Takashi, Ogawa Hidesato, Nakagawa Sinichi, Makishima Makoto	4. 巻 497
2. 論文標題 Ess2 bridges transcriptional regulators and spliceosomal complexes via distinct interacting domains	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 597 ~ 604
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2018.02.110	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Saga Kunihiro, Iwashita Yukio, Hidano Shinya, Aso Yuiko, Isaka Kenji, Kido Yasutoshi, Tada Kazuhiro, Takayama Hiroomi, Masuda Takashi, Hirashita Teijiro, Endo Yuichi, Ohta Masayuki, Kobayashi Takashi, Inomata Masafumi	4. 巻 19
2. 論文標題 Secondary Unconjugated Bile Acids Induce Hepatic Stellate Cell Activation	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Molecular Sciences	6. 最初と最後の頁 3043 ~ 3043
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms19103043	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi Kaori, Kamiyama Naganori, Hidano Shinya, Gendo Yoshiko, Sonoda Akira, Ozaki Takashi, Hirose Haruna, Sachi Nozomi, Saechue Benjawan, Ozaka Sotaro, Eshita Yuki, Mizukami Kazuhiro, Kawano Kenji, Kobayashi Takashi	4. 巻 504
2. 論文標題 Autoimmune sialadenitis is associated with the upregulation of chemokine/chemokine receptor pairs in T cell-specific TRAF6-deficient mice	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 245 ~ 250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2018.08.162	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ji Rui-Cheng, Eshita Yuki, Kobayashi Takashi, Hidano Shinya, Kamiyama Naganori, Onishi Yasuhiko	4. 巻 35
2. 論文標題 Role of simvastatin in tumor lymphangiogenesis and lymph node metastasis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Clinical & Experimental Metastasis	6. 最初と最後の頁 785 ~ 796
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10585-018-9940-8	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sonoda Akira, Kamiyama Naganori, Ozaka Sotaro, Gendo Yoshiko, Ozaki Takashi, Hirose Haruna, Noguchi Kaori, Saechue Benjawan, Sachi Nozomi, Sakai Kumiko, Mizukami Kazuhiro, Hidano Shinya, Murakami Kazunari, Kobayashi Takashi	4. 巻 23
2. 論文標題 Oral administration of antibiotics results in fecal occult bleeding due to metabolic disorders and defective proliferation of the gut epithelial cell in mice	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Genes to Cells	6. 最初と最後の頁 1043 ~ 1055
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/gtc.12649	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kijogi Caroline, Kimura Daisuke, Bao Lam Quoc, Nakamura Risa, Chadeka Evans Asena, Cheruiyot Ngetich Benard, Bahati Felix, Yahata Kazuhide, Kaneko Osamu, Njenga Sammy M., Ichinose Yoshio, Hamano Shinjiro, Yui Katsuyuki	4. 巻 67
2. 論文標題 Modulation of immune responses by Plasmodium falciparum infection in asymptomatic children living in the endemic region of Mbita, western Kenya	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Parasitology International	6. 最初と最後の頁 284 ~ 293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.parint.2018.01.001	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Manabu, Niki Maniko, Ozeki Yuriko, Nagi Sachiyo, Chadeka Evans Asena, Yamaguchi Takehiro, Osada-Oka Mayuko, Ono Kenji, Oda Tetsuya, Mwendu Faith, Kaneko Yukihiro, Matsumoto Makoto, Kaneko Satoshi, Ichinose Yoshio, Njenga Sammy M., Hamano Shinjiro, Matsumoto Sohkiichi	4. 巻 8
2. 論文標題 High-density lipoprotein suppresses tumor necrosis factor alpha production by mycobacteria-infected human macrophages	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 6736-2018
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-24233-1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ghosh Prakash, Hasnain Md Golam, Hossain Faria, Khan Md Anik Ashfaq, Chowdhury Rajashree, Faisal Khaledul, Mural Moshtaq Ahmed, Baker James, Nath Rupen, Ghosh Debashis, Maruf Shomik, Shomik Mohammad Sohel, Haque Rashidul, Matlashewski Greg, Hamano Shinjiro, Duthie Malcolm S, Mondal Dinesh	4. 巻 5
2. 論文標題 Evaluation of Real-time PCR for Diagnosis of Post-Kala-azar Dermal Leishmaniasis in Endemic Foci of Bangladesh	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Open Forum Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ofid/ofy234	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 AKSORN NITHIKOON, ROYTRAKUL SITTIRUK, KITTISENACHAI SUTHATHIP, LEELAWAT KAWIN, CHANVORACHOTE PITHI, TOPANURAK SUPACHAI, HAMANO SHINJIRO, LEK-UTHAI USA	4. 巻 32
2. 論文標題 Novel Potential Biomarkers for Opisthorchis viverrini Infection and Associated Cholangiocarcinoma	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 In Vivo	6. 最初と最後の頁 871 ~ 878
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21873/invivo.11321	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimokawa Chikako, Senba Masachika, Kobayashi Seiki, Kikuchi Mihoko, Obi Seiji, Ochiai Alex, Hamano Shinjiro, Hisaeda Hajime	4. 巻 200
2. 論文標題 Intestinal Inflammation-Mediated Clearance of Amebic Parasites Is Dependent on IFN-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of Immunology	6. 最初と最後の頁 1101 ~ 1109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4049/jimmunol.1700806	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Gendo Y, Matsumoto T, Kamiyama N, Saechue B, Fukuda C, Dewayani A, Hidano S, Noguchi K, Sonoda A, Ozaki T, Sachi N, Hirose H, Ozaka S, Eshita Y, Mizukami K, Okimoto T, Kodama M, Yoshimatsu T, Nishida H, Daa T, Yamaoka Y, Murakami K, Kobayashi T	4. 巻 3
2. 論文標題 Dysbiosis of the Gut Microbiota on the Inflammatory Background due to Lack of Suppressor of Cytokine Signalling-1 in Mice	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Inflammatory Intestinal Diseases	6. 最初と最後の頁 145 ~ 154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000495462	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 濱野真二郎	4. 巻 613(3)
2. 論文標題 「生涯教育シリーズ」熱帯感染症の克服を目指して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 長崎市医師会報	6. 最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Moriyasu, T., Nakamura, R., DeLoer, S., Senba, M., Kubo, M., Inoue, M., Culleton, R., Hamano, S.	4. 巻 12
2. 論文標題 Schistosoma mansoni infection suppresses the growth of Plasmodium yoelii parasites in the liver and reduces gametocyte infectivity to mosquitoes	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLOS Neglected Tropical Diseases	6. 最初と最後の頁 e0006197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pntd.0006197	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kijogi Caroline, Kimura Daisuke, Bao Lam Quoc, Nakamura Risa, Chadeka Evans Asena, Cheruiyot Ngetich Benard, Bahati Felix, Yahata Kazuhide, Kaneko Osamu, Njenga Sammy M., Ichinose Yoshio, Hamano Shinjiro, Yui Katsuyuki	4. 巻 67
2. 論文標題 Modulation of immune responses by Plasmodium falciparum infection in asymptomatic children living in the endemic region of Mbita, western Kenya	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Parasitology International	6. 最初と最後の頁 284 ~ 293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.parint.2018.01.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飛弾野真也、水上一弘、佐知望美、神山長慶、小林隆志	4. 巻 74巻 11号
2. 論文標題 アニサキス症の最近の知見と動向	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 医学と薬学	6. 最初と最後の頁 1387 -1392
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kamiyama N, Soma R, Hidano S, Watanabe K, Umekita H, Fukuda C, Noguchi K, Gendo Y, Ozaki T, Sonoda A, Sachi N, Runtuwene LR, Miura Y, Matsubara E, Tajima S, Takasaki T, Eshita Y, Kobayashi T.	4. 巻 146
2. 論文標題 Ribavirin inhibits Zika virus (ZIKV) replication in vitro and suppresses viremia in ZIKV-infected STAT1-deficient mice.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Antiviral Res.	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.antiviral.2017.08.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神山長慶、佐知望美、飛弾野真也、小林隆志	4. 巻 68 (1)
2. 論文標題 蚊媒介性ウイルス疾患	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 臨床免疫・アレルギー科	6. 最初と最後の頁 79-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimokawa, C., Senba, M., Kobayashi, S., Kikuchi, M., Obi, S., Ochia, A., Hamano, S., Hisaeda, H.	4. 巻 200(3)
2. 論文標題 Intestinal inflammation-mediated clearance of amebic parasites is dependent on IFN- .	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J. Immunol.	6. 最初と最後の頁 1101-1109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4049/jimmunol.1700806.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 DeLoer, S., Nakamura, R., Kikuchi, M., Moriyasu, T., Kalenda, Y.D.J., Mohammed, E.S., Senba, M., Iwakura, Y., Yoshida, H., *Hamano, S.	4. 巻 66(6)
2. 論文標題 IL-17A contributes to reducing IFN- /IL-4 ratio and persistence of Entamoeba histolytica during intestinal amebiasis.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Parasitol. Int.	6. 最初と最後の頁 817-823
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.parint.2017.09.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chadeka, E.A., Nagi, S., Sunahara, T., Cheruiyot, N.B., Bahati, F., Ozeki, Y., Inoue, M., Osada-Oka, M., Okabe, M., Hirayama, Y., Changoma, M., Adachi, K., Mwende, F., Kikuchi, M., Nakamura, R., Dan Justin, Y.K., Kaneko, S., Hirayama, K., Shimada, M., Ichinose, Y., Njenga, S.M., Matsumoto, S., Hamano, S.	4. 巻 11(9)
2. 論文標題 Spatial distribution and risk factors of Schistosoma haematobium and hookworm infections among schoolchildren in Kwale, Kenya.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 PLoS Negl. Trop. Dis.	6. 最初と最後の頁 e0005872
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pntd.0005872	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Bao, L.Q., Nhi, D.M., Huy, N.T., Hamano, S., Hirayama, K.	4. 巻 150(2)
2. 論文標題 Tacrolimus prevents murine cerebral malaria.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Immunology	6. 最初と最後の頁 155-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/imm.12661	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中美緒・中村梨沙・濱野真二郎	4. 巻 70
2. 論文標題 貝媒介性感染症: 住血吸虫症、「増刊号 グローバル化・温暖化と感染症対策」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 小児科臨床	6. 最初と最後の頁 2289-2295
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中美緒・濱野真二郎：アメーバ赤痢	4. 巻 74(11)
2. 論文標題 「特集 寄生虫症（ ）」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 医学と薬学	6. 最初と最後の頁 1399-1405
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安達圭司・濱野真二郎	4. 巻 70(11)
2. 論文標題 One Healthの視点からみた寄生虫感染症、「特集 One Healthの視点からみた感染症の現状と対策」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 最新醫學	6. 最初と最後の頁 2407-2414
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計117件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 20件）

1. 発表者名 Naganori Kamiyama, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka, Shimpei Arika, Thanyakorn Chalalai, Yasuhiro Soga, Chiaki Fukuda, Yomei Kagoshima, Supanuch Ekronarongchai, Masahiro Yamamoto, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Functional analysis of chemokine receptor CCR2 in a murine congenital toxoplasmosis model
3. 学会等名 第15回寄生虫感染免疫研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Naganori Kamiyama, Thanyakorn Chalalai, Sotaro Ozaka, Shimpei Arika, Yomei Kagoshima, Nozomi Sachi, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Zika virus induces pathogenic T cell-attracting chemokines in the central nervous system and exacerbates experimental autoimmune encephalomyelitis
3. 学会等名 第51回日本免疫学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 神山 長慶, THANYAKORN CHALALAI, 佐知 望美, 小坂 聡太郎, 有木 晋平, 曾我 泰裕, 鹿子嶋 洋明, SUPANUCH EKRONARONGCHAI, 小林 隆志
2. 発表標題 ケモカイン受容体 CCR2 のトキソプラズマ垂直感染に対する機能
3. 学会等名 第74回 日本寄生虫学会 南日本支部大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nozomi Sachi, Naganori Kamiyama, Sotaro Ozaka, Shimpei Ariki, Thanyakorn Chalalai, Yomei Kagoshima, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Physiological function of chemokine CCL20 and its receptor CCR6 in multiple sclerosis in mice
3. 学会等名 第51回日本免疫学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sotaro Ozaka, Shimpei Ariki, Yomei Kagoshima, Naganori Kamiyama, Nozomi Sachi, Thanyakorn Chalalai, Astri Dewayani, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Secretory leukocyte protease inhibitor ameliorates murine experimental colitis by protecting the intestinal epithelial barrier
3. 学会等名 第51回日本免疫学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Thanyakorn Chalalai, Naganori Kamiyama, Shimpei Ariki, Sotaro Ozaka, Nozomi Sachi, Yomei Kagoshima, Ryu Okumura, Kiyoshi Takeda, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Physiological relevance of TRAF6 signaling in dendritic cells in controlling C. rodentium infection
3. 学会等名 第51回日本免疫学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shimpei Arika, Sotaro Ozaka, Nozomi Sachi, Yomei Kagoshima, Thanyakorn Chalalai, Naganori Kamiyama, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Identification of pathogenic Th17 cells in gastrointestinal tract using chemokine receptor deficient mice
3. 学会等名 第51回日本免疫学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sotaro Ozaka, Shimpei Arika, Naganori Kamiyama, Yomei Kagoshima, Nozomi Sachi, Thanyakorn Chalalai, Yasuhiro Soga, Kazuhiro Mizukami, Kazunari Murakami, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Secretory leukocyte protease inhibitor ameliorates experimental colitis by protecting the intestinal epithelial barrier
3. 学会等名 第12回 癌・炎症と抗酸化研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Naganori Kamiyama, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Chalalai Thanyakorn, Sotaro Ozaka, Shimpei Arika, Chiaki Fukuda, Yasuhiro Soga, Mizuki Minata, Nozomi Sachi, Shinya Hidano, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Zika virus induces Th17 cell-attracting chemokines in the central nervous system and exacerbates neurological disorders
3. 学会等名 第44回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naganori Kamiyama, Benjawan Saechue, Astri Dewayan, Thanyakorn Chalalai, Yasuhiro Soga, Chiaki Fukuda, Sotaro Ozaka, Shimpei Arika, Nozomi Sachi, Shinya Hidano, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Zika virus induces Th17 cell-attracting chemokines in the central nervous system and exacerbates experimental autoimmune encephalomyelitis
3. 学会等名 第14回寄生虫感染免疫研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 望月晶子, Thanyakorn chalalai1, 伊藤加奈子, 有木 晋平, 小坂聡太郎, 佐知望美, 神山長慶, 小林隆志.
2. 発表標題 樹状細胞におけるTRAF6シグナルがCitrobacter rodentium感染性腸炎に与える役割.
3. 学会等名 第11回 癌・炎症と抗酸化研究会(CIA研究会).
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小坂聡太郎, 有木晋平, 皆田美月, 神山長慶, 佐知望美, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Thanyakorn Chalalai, 曾我泰裕, 福田千瑛, 水上一弘, 村上和成, 小林隆志.
2. 発表標題 柴苓湯はマウスにおいて抗菌薬によるdysbiosisに起因するLeaky gutを軽減する.
3. 学会等名 第44回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 皆田美月, 小坂聡太郎, 有木晋平, 神山長慶, 佐知望美, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Thanyakorn Chalalai, 曾我泰裕, 福田千瑛, 水上一弘, 村上和成, 小林隆志.
2. 発表標題 大建中湯のSLPI発現増強を介した腸管保護作用の解析.
3. 学会等名 第44回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yasuhiro Soga, Naganori Kamiyama, Takashi Ozaki, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka, Shinpei Ariki, Thanyakorn Chalalai, Chiaki Fukuda, Takashi Kobayash
2. 発表標題 Verification of T cell inhibitory effect of lipid mediator Oleylethanolamide
3. 学会等名 第44回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名	Chiaki Fukuda, Naganori Kamiyama, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Chalalai Thanyakorn, Sotaro Ozaka, Shinpei Arika, Yasuhiro Soga, Mizuki Minata, Nozomi Sachi, Shinya Hidano, Ryosuke Suzuki, Takashi Kobayashi
2. 発表標題	Identification of a responsible amino acid in prME protein for cell entry of Zika virus using single-round infectious particles (SRIPs)
3. 学会等名	第44回日本分子生物学会年会
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	有木晋平, 小坂聡太郎, 神山長慶, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Thanyakorn Chalalai, 佐知望美, 曾我泰裕, 福田千瑛, 水上一弘, 村上和成, 小林隆志
2. 発表標題	T細胞特異的TRAF6欠損マウスを用いた腸管におけるnon-pathogenic Th17細胞に関する研究
3. 学会等名	第44回日本分子生物学会年会
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	Astri Dewayani, Naganori Kamiyama, Shinya Hidano, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka, Shimpei Arika, Benjawan Saechue, Yasuhiro Soga, Thanyakorn Chalalai, Chiaki Fukuda, Takashi Kobayashi
2. 発表標題	TRAF6 regulates Th9 cells and cytotoxic T lymphocytes in tumor immunity
3. 学会等名	第44回日本分子生物学会年会
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	Nozomi Sachi, Naganori Kamiyama, Benjawan Saechue, Sotaro Ozaka, Astri Dewayani, Shimpei Arika, Thanyakorn Chalalai, Yasuhiro Soga, Chiaki Fukuda, Takashi Kobayashi
2. 発表標題	CCL20欠損マウスを用いた多発性硬化症の発症におけるCCL20の機能解析 Analysis of the role of CCL20 in the development of multiple sclerosis using CCL20-deficient mice
3. 学会等名	第44回日本分子生物学会年会
4. 発表年	2021年

1. 発表者名 Thanyakorn Chalala, Naganori Kamiyama, Shinya Hidano, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka, Shimpei Ariki, Benjawan Saechue, Yasuhiro Soga, Astri Dewayani, Chiaki Fukuda, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 C.rodentium感染における樹状細胞におけるTRAF6シグナルの役割
3. 学会等名 第44回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Naganori Kamiyama, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Chalalai Thanyakorn, Sotaro Ozaka, Shinpei Ariki, Yasuhiro Soga, Mizuki Goto, Nozomi Sachi, Shinya Hidano, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 TRAF6 promotes the migration of Th17 cells into the CNS by regulating CCR6 expression in experimental autoimmune encephalomyelitis mice
3. 学会等名 第43回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Astri Dewayani, Naganori Kamiyama, Shinya Hidano, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka, Shimpei Ariki, Benjawan Saechue, Mizuki Goto, Yasuhiro Soga, Thanyakorn Chalalai, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 TRAF6 Signaling in Th9 cells Regulates Anti-Tumor Immune Response
3. 学会等名 第43回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shinya Hidano, Kazuhiro Mizukami, Naganori Kamiyama, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka, Kazunari Murakami and Takashi Kobayashi.
2. 発表標題 Analysis of pathogenic mechanism in Anisakis infection
3. 学会等名 第13回寄生虫感染免疫研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 神山長慶、Benjawan Saechue、Astri Dewayani、Thanyakorn Chalalai、飛弾野真也、佐知望美、小坂聡太郎、有木晋平、曾我泰裕、後藤美月、小林隆志
2. 発表標題 TRAF6 in T cells exacerbates the severity of experimental autoimmune encephalomyelitis by up-regulating CCR6 expression
3. 学会等名 第97回日本生理学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 神山長慶、Benjawan Saechue、Astri Dewayani、Thanyakorn Chalalai、Thanyakorn Chalalai、佐知望美、小坂聡太郎、有木晋平、曾我泰裕、後藤美月、飛弾野真也、小林隆志
2. 発表標題 ジカウイルスの細胞侵入能を規定するアミノ酸の同定および神経変性疾患の増悪メカニズムの解明
3. 学会等名 第10回癌・炎症と抗酸化研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小坂聡太郎、有木晋平、園田光、Benjawan Saechue、Astri Dewayani、神山長慶、飛弾野真也、水上一弘、村上和成、小林隆志
2. 発表標題 抗生物質や抗菌ペプチドによる腸内環境の変化が腸内細菌叢に及ぼす影響
3. 学会等名 第10回癌・炎症と抗酸化研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 有木晋平、玄同淑子、松本昂、小林隆志
2. 発表標題 SOCS 1 欠損によるマウス腸内細菌叢への影響
3. 学会等名 第10回癌・炎症と抗酸化研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小坂聡太郎、有木晋平、園田光、佐知望美、後藤美月、曾我泰裕、広瀬晴奈、尾崎貴士、Benjawan Saechue、Astri Dewayani、神山長慶、飛弾野真也、水上一弘、村上和成、小林隆志
2. 発表標題 抗生物質起因性大腸炎モデルマウスに対する柴苓湯の保護効果の解明
3. 学会等名 第42回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Astri Dewayani, Naganori Kamiyama, Shinya Hidano, Takashi Ozaki, Akira Sonoda, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka, Shimpei Ariki, Benjawan Saechue, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 TRAF6 Regulation in TH9 Cell Responses to Tumor Growth
3. 学会等名 第42回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Benjawan Saechue, Dinesh Mondal, and Takashi Kobayashi et al
2. 発表標題 Development of a portable reverse transcription loop-mediated isothermal amplification (RT-LAMP) system to detect the Chikungunya virus in a cost-effective manner
3. 学会等名 第42回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naganori Kamiyama, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Shinya Hidano, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka, Shinpei Ariki, Yasuhiro Soga, Mizuki Goto, Ryosuke Suzuki, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 "Zika virus African strain has higher entry ability to host cell than Asian strain, and exacerbates EAE"
3. 学会等名 第42回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名	Nozomi Sachi, Chiaki Fukuda, Shinya Hidano, Naganori Kamiyama, Benjawan Saechue, Sotaro Ozaka, Astri Dewayani, Shimpei Ariki, Yasuhiro Soga, Mizuki Goto, Takashi Kobayashi
2. 発表標題	ゲノム編集マウスを用いたケモカインCCL20の腸管組織における生理的機能の解析
3. 学会等名	第42回日本分子生物学会年会
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	Yasuhiro Soga, Naganori Kamiyama, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Shinya Hidano, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka, Shinpei Ariki, Mizuki Goto, Takashi Kobayashi
2. 発表標題	TRAF6を介した炎症シグナルを定量化するレポーターアッセイ系の樹立と炎症を抑制する新規分子の探索
3. 学会等名	第42回日本分子生物学会年会
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	Mizuki Goto, Haruna Hirose, Naganori Kamiyama, Benjawan Saechue, Astri Dewayani, Shinya Hidano, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka, Shinpei Ariki, Yasuhiro Soga, Takashi Kobayashi
2. 発表標題	白癬菌増殖抑制効果を有するわさびの機能分子の探索
3. 学会等名	第42回日本分子生物学会年会
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	Naganori Kamiyama, Nozomi Sachi, Shinya Hidano, Takashi Kobayashi
2. 発表標題	Zika virus African strain has higher cell entry ability than Asian strain, and exacerbates EAE
3. 学会等名	第48回 日本免疫学会総会
4. 発表年	2019年

1. 発表者名 Shinya Hidano, Naganori Kamiyama, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka and Takashi Kobayashi.
2. 発表標題 TRAF6 deficiency in dendritic cells exacerbates the disease severity of Toxoplasma gondii infection in mice.
3. 学会等名 第48回 日本免疫学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Kobayashi, Sotaro Ozaka, Nozomi Sachi, Naganori Kamiyama, Shinya Hidano, Kiyoshi Takeda
2. 発表標題 Role of Secretory leukocyte proteinase inhibitor (SLPI) in the pathogenesis of Inflammatory bowel disease
3. 学会等名 第48回 日本免疫学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飛弾野真也, 神山長慶, 佐知望美, Astri Dewayani, 小坂 聡太郎, Benjawan Saechue, 小林隆志,
2. 発表標題 樹状細胞のTRAF6シグナルは、トキソプラズマ感染早期コントロールに重要である
3. 学会等名 第88回日本寄生虫学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林隆志, 飛弾野真也, 水上 一弘, 財津 純可, 草野 耀永, 伊藤 秀幸, Astri Dewayani, 小坂 聡太郎, Benjawan Saechue, 佐知望美, 神山長慶, 村上 和成
2. 発表標題 アニサキス感染におけるIgE誘導機序の解析
3. 学会等名 第88回日本寄生虫学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Kobayashi
2. 発表標題 シグナル伝達分子TRAF6による自然免疫と獲得免疫の制御
3. 学会等名 第38回岡山免疫懇話会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Regulation of innate and adaptive immunity by TRAF6
3. 学会等名 Bangkok, Department of Microbiology, Faculty of Science, Chulalongkorn University（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinya Hidano, Naganori Kamiyama, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka and Takashi Kobayashi
2. 発表標題 TRAF6 in dendritic cells is required for resistance to <i>Toxoplasma gondii</i> infection.
3. 学会等名 第12回寄生虫感染免疫研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Endah D. H, Daniel K. I, Takaya S, Xinying W, Kota M, Rajib A, Yuichi M, Mihoko M, Kazuro S, Tomoyoshi N, Shinjiro H, Kiyoshi K
2. 発表標題 Novel inhibitors of <i>Plasmodium falciparum</i> mitochondrial malate:quinone oxidoreductase.
3. 学会等名 第88回日本寄生虫学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Risa N, DeLoer S, Mihoko K, Shigeo K, Kazuyo M, Shinjiro H
2. 発表標題 2型自然リンパ球は好中球及び好酸球の集積を調節することでアメーバ性肝膿瘍の病態形成を増悪させる。ILC2 exacerbates the pathogenesis of amebic liver abscess through promoting the accumulation of eosinophil and neutrophil.
3. 学会等名 第88回日本寄生虫学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Evans C, Cheruiyot N. B, Sachiyo N, Toshihiko S, Njenga S. M, Shinjiro H
2. 発表標題 Spatio-temporal Transmission and Environmental Determinants of <i>Schistosoma mansoni</i> in Mbita, western Kenya.
3. 学会等名 第88回日本寄生虫学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Md. A. M, Nakamura R, Asma H, Greg M, Hira L. N, Abhay R. S, Shinjiro H
2. 発表標題 Live attenuated <i>Leishmania major</i> as a prophylactic vaccine.
3. 学会等名 第88回日本寄生虫学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keith K. T, Daniel K. I, Yuichi M, Tetsuro K, Endah D. H, Tomoyoshi N, Shinjiro H, Kiyoshi K
2. 発表標題 Functional expression and biochemical studies of <i>Schistosoma mansoni</i> sulfide : quinone oxidoreductase.
3. 学会等名 第88回日本寄生虫学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinjiro H
2. 発表標題 An effective and safe live attenuated vaccine developed by CRISPR gene editing for leishmaniasis.
3. 学会等名 第12回寄生虫感染免疫研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飛彈野真也、水上一弘、財津純可、草野耀永、伊藤秀幸、佐知望美、神山長慶、村上和成、小林隆志
2. 発表標題 劇症型アニサキス症における発症要因・メカニズムの解明
3. 学会等名 第26回分子寄生虫ワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takashi Kobayashi, Naganori Kamiyama, Shinya Hidano, Nozomi Sachi
2. 発表標題 SUPPRESSION OF EXPERIMENTAL AUTOIMMUNE ENCEPHALOMYELITIS BY SELECTIVE DELETION OF TRAF6 IN T-CELLS IN MICE
3. 学会等名 FMSA 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飛彈野真也、水上一弘、財津純可、草野耀永、伊藤秀幸、佐知望美、神山長慶、村上和成、小林隆志
2. 発表標題 胃アニサキス症の劇症化メカニズムの解明
3. 学会等名 第9回癌・炎症と抗酸化研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Benjawan Saechue, Naganori Kamiyama, Shinya Hidano, Kaori Noguchi, Yoshiko Gendo, Takashi Ozaki, Akira Sonoda, Haruna Hirise, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka, Takashi Kobayashi,
2. 発表標題 Development of a rapid and simple reverse transcription loop-mediated isothermal amplification for Chikungunya virus
3. 学会等名 41回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神山長慶, 渡辺 景, Benjawan Saechue, 飛弾野真也, 野口香緒里, 玄同淑子, 尾崎貴士, 園田光, 広瀬 晴奈, 小坂 聡太郎, 佐知望美, 鈴木 亮介, 小林隆志
2. 発表標題 アフリカ株とアジア株SRIPsを用いた、ジカウイルスの宿主細胞侵入効率の解析
3. 学会等名 41回日本分子生物学会年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinya Hidano, Naganori Kamiyama, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka and Takashi Kobayashi
2. 発表標題 TRAF6 in dendritic cells regulates innate immune control of Toxoplasma gondii.
3. 学会等名 第47回 日本免疫学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naganori Kamiyama, Shinya Hidano, Nozomi Sachi, Sotaro Ozaka, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 TRAF6 in Th17 cells exacerbates the severity of experimental autoimmune encephalomyelitis by regulating CCR6 expression
3. 学会等名 第47回 日本免疫学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sotaro Ozaka, Akira Sonoda, Shinya Hidano, Naganori Kamiyama, Nozomi Sachi, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Combinatorial treatment of ampicillin and vancomycin induces colitis due to metabolic disorders and impaired epithelial barrier function in the gut
3. 学会等名 第47回 日本免疫学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nozomi Sachi, Shinya Hidano, Naganori Kamiyama, Sotaro Ozaka, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Analysis of the localization of immunu cells in mice deficient in CC chemokine ligand CCL20
3. 学会等名 第47回 日本免疫学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長谷川光子, Nils P, 菊池三穂子, Arianna R. M, Judd L. W, Steven A. W, 濱野真二郎
2. 発表標題 Real-time PCRを用いた日本の土壌伝播蠕虫感染状況調査
3. 学会等名 第29回日本臨床寄生虫学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Risa N, Sharmina D, Masachika S, Mihoko K, Shigeo K, Kazuyo M, Shinjiro H
2. 発表標題 Group 2 innate lymphoid cells exacerbate severe amebic liver abscess by IFN- independent manner in mice.
3. 学会等名 ICOPA2018 14th INTERNATIONAL CONGRESS OF PARASITOLOGY (国際学会)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Evans A, Benard N. C, Sammy M. N, Shinjiro H
2 . 発表標題 A persistent high intensity cluster of Schistosoma mansoni infection around Mbita causeway, western Kenya.
3 . 学会等名 ICOPA2018 14th INTERNATIONAL CONGRESS OF PARASITOLOGY ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Taeko M, Risa N, Sharmina D, Masachika S, Masato K, Megumi I, Richard C, Shinjiro H
2 . 発表標題 Schistosoma mansoni infection suppresses the growth of Plasmodium yoelii parasites in the liver and reduces gametocyte infectivity to mosquitoes.
3 . 学会等名 ICOPA2018 14th INTERNATIONAL CONGRESS OF PARASITOLOGY ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Md. A. M, Asma H, Risa N, Greg M, Hira L. N, Abhay R. S, Shinjiro H
2 . 発表標題 Live attenuated Leishmania major as a prophylactic vaccine.
3 . 学会等名 ICOPA2018 14th INTERNATIONAL CONGRESS OF PARASITOLOGY ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Shinjiro H
2 . 発表標題 Host factors associated with the settlement of ameba in the gut and defense mechanisms to ameba.
3 . 学会等名 ICOPA2018 14th INTERNATIONAL CONGRESS OF PARASITOLOGY ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Md. A. M, Asma H, Risa N, Greg M, Hira L. N, Abhay R. S, Shinjiro H
2. 発表標題 Live attenuated Leishmania major as a prophylactic vaccine.
3. 学会等名 第17回あわじしま感染症・免疫フォーラム（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mio T, Taeko M, Evans C. A, Benard N. C, Yoshito F, Satoshi K, Risa N, Shinjiro H
2. 発表標題 A Novel diagnostic method for schistosomiasis: detecting antibody against single proteins in human serum and urine.
3. 学会等名 第71回日本寄生虫学会南日本支部大会・第68回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chadeka E, Benard. N C, Sammy M. N, Shinjiro H
2. 発表標題 Spatiotemporal epidemiology of Schistosoma mansoni infection at a small-scale level in Mbita, western Kenya.
3. 学会等名 第71回日本寄生虫学会南日本支部大会・第68回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Risa N, Sharmina D, Masachika S, Mihoko K, Shigeo K, Kazuyo M, Shinjiro H
2. 発表標題 Group 2 innate lymphoid cells exacerbate the pathogenesis of amebic liver abscess through promoting the accumulation of eosinophil and neutrophil.
3. 学会等名 第71回日本寄生虫学会南日本支部大会・第68回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Md. A. M, Risa N, Asma H, Greg M, Hira L. N, Abhay R. S, Shinjiro H
2. 発表標題 Live attenuated Leishmania major as a prophylactic vaccine.
3. 学会等名 第71回日本寄生虫学会南日本支部大会・第68回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mitsuko H, Shinjiro H
2. 発表標題 Have soil-transmitted helminths been eliminated in Japan?-Targeted prevalence survey using highly sensitive and specific multi-parallel real-time PCR.
3. 学会等名 ASTMH 67th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hasegawa M, Pilotte N, Kikuchi M, Means A, Walson J, Williams S, Hamano S
2. 発表標題 Have soil-transmitted helminths been eliminated in Japan?-Targeted prevalence survey using highly sensitive and specific multi-parallel real-time PCR.
3. 学会等名 ASTMH 67th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Karmakar S, Dey R, Oliveira F, Ismail N, Zhang W, Hamano S, Matlashewski G, Satoskar A, Kamhawi S, Valenzuela JG., Nakhasi HL
2. 発表標題 Evaluation of safety and efficacy of Leishmania major centrin deleted (LmCen-/-) live attenuated parasites as a prophylactic vaccine against Visceral Leishmaniasis
3. 学会等名 ASTMH 67th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ghosh P, Hasnain Md G, Hossain Faria, Khan Md AA, Chowdhury R, Faisal K, Mural MH, Baker J, Nath R, Ghosh D, Maruf S, Haque R, Matlashewsk G, Hamano S, Duthie M, Mondal D
2. 発表標題 Evaluation of real time PCR for diagnosis of Post-kala-azar dermal leishmaniasis (PKDL) in an endemic foci of Bangladesh
3. 学会等名 ASTMH 67th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村 梨沙, DeLoer S, 千馬 正敬, 菊池 三穂子, 小安 重夫, 茂呂 和世, 濱野 真二郎
2. 発表標題 Group 2 innate lymphoid cells exacerbate amebic liver abscess through promoting the accumulation of eosinophil and neutrophil.
3. 学会等名 第59回日本熱帯医学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金子 聡, サムソン ムウオ, マチル ムワウ, 柴崎 亮介, 大平 亘, 宮崎 浩之, 多賀 優, 森保 妙子, 濱野 真二郎, 平山 謙二
2. 発表標題 Serological surveillance system for multiple tropical infectious diseases using simultaneous microsphere-based multiplex assays and satellite images.
3. 学会等名 第59回日本熱帯医学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二見 恭子, 菊池 三穂子, 原 史絵, 胡 錦萍, 皆川 昇, 濱野 真二郎
2. 発表標題 ビクトリア湖浮遊ホテイアオイと未知の住血吸虫宿主の可能性
3. 学会等名 第59回日本熱帯医学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長谷川光子, Chen-Yu Ma, Arianna R. M, 菊池三穂子, Judd L. W, 濱野真二郎
2. 発表標題 土壌伝播蠕虫感染状況調査において任意の糞便検査参加に影響を及ぼす要因の調査
3. 学会等名 第12回蠕虫研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mio T, Taeko M, Evans C. A, Benard N. C, Yoshito F, Satoshi K, Risa N, Shinjiro H
2. 発表標題 A Novel diagnostic method for schistosomiasis: detecting antibody against single proteins in human serum and urine.
3. 学会等名 第12回蠕虫研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Risa N, Sharmina D, Masachika S, Mihoko K, Shigeo K, Kazuyo M, Shinjiro H
2. 発表標題 Group 2 innate lymphoid cells exacerbate severe amebic liver abscess by IFN- independent manner in mice.
3. 学会等名 ILC2018; The 3rd International Conference on Innate Lymphoid Cells (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Risa N, Sharmina D, Masachika S, Mihoko K, Shigeo K, Kazuyo M, Shinjiro H
2. 発表標題 Group 2 innate lymphoid cells exacerbate severe amebic liver abscess by IFN- independent manner in mice.
3. 学会等名 第47回日本免疫学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naganori Kamiyama, Benjawan Saechu, Shinya Hidano, Kei Watanabe, Hidekazu Matsuoka, Kaori Noguchi, Yoshiko Gendo, Takashi Ozaki, Akira Sonoda, Nozomi Sachi, Yuki Eshita, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 T細胞特異的TRAF6欠損マウスは実験的自己免疫性脳脊髄炎の発症が抑制される
3. 学会等名 第4回病因研究会別府シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naganori Kamiyama, Benjawan Sae-chue, Yinan Wang, Akinaga Kusano, Nozomi Sachi, Shinya Hidano and Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Analysis of a fluorescent material in Anisakis larvae.
3. 学会等名 第11回寄生虫感染免疫研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinya Hidano, Tadashi Kondo, Kazuhiro Mizukami, Makoto Nakatani, Naganori Kamiyama, Nozomi Sachi, Kazunari Murakami, Osamu Hirose and Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Analysis of a fluorescent material in Anisakis larvae.
3. 学会等名 第11回寄生虫感染免疫研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Risa Nakamura, Sharmina DeLoer, Masachika Senba, Mihoko Kikuchi, Shigeo Koyasu, Kazuyo Moro, Shinjiro Hamano
2. 発表標題 Group 2 innate lymphoid cells exacerbate severe amebic liver abscess by IFN-g independent manner in mice.
3. 学会等名 第87回日本寄生虫学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Taeko Moriyasu, Risa Nakamura, Richard Culleton, Shinjiro Hamano
2. 発表標題 Schistosoma mansoni infection suppresses the growth of Plasmodium yoelii parasites in the liver and reduces gametocyte infectivity to mosquitoes.
3. 学会等名 第87回日本寄生虫学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Evans Asena Chadeka, Sachiyo Nagi, Toshihiko Sunahara, 他19名, Shinjiro Hamano
2. 発表標題 Spatial distribution and risk factors of Schistosoma haematobium and hookworm infections among schoolchildren in Kwale, Kenya.
3. 学会等名 第87回日本寄生虫学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Risa Nakamura, Sharmina DeLoer, Masachika Senba, Mihoko Kikuchi, Shigeo Koyasu, Kazuyo Moro, Shinjiro Hamano
2. 発表標題 Group 2 innate lymphoid cells exacerbate severe amebic liver abscess by IFN-g independent manner in mice
3. 学会等名 第11回寄生虫感染免疫研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Taeko Moriyasu, Risa Nakamura, Richard Culleton, Shinjiro Hamano
2. 発表標題 Schistosoma mansoni infection suppresses the growth of Plasmodium yoelii parasites in the liver and reduces gametocyte infectivity to mosquitoes
3. 学会等名 日米医学寄生虫疾患部会合同会議 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森保 妙子, 嶋田 聡, 今西 望
2. 発表標題 子ども感染症教室in対馬～正しい知識で感染症から身を守ろう!～
3. 学会等名 対馬学フォーラム2017
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinya Hidano, Christoph Konradt, Daniel P. Beiting, Lothar Hennighausen, Serge Fuchs, Anita A. Koshy, Naganori Kamiyama, Takashi Kobayashi and Christopher A Hunter.
2. 発表標題 アストロサイトのSTAT1シグナルは、トキソプラズマ脳炎のコントロールに重要である。
3. 学会等名 第86回 日本寄生虫学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近藤 雅, 中谷 誠, 飛弾野 真也, 小林 隆志
2. 発表標題 蛍光特性を示すアニサキス種の同定ならびに食品検査への応用
3. 学会等名 第86回 日本寄生虫学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 水上一弘、飛驒野真也、伊藤秀幸、神山長慶、相馬 渉、阿部寿徳、勝田真琴、安部高志、永井敬之、後藤康彦、井上邦光、大場一生、卜部繁俊、吉田 亮、大仁田賢、安部高志、永井敬之、後藤康彦、井上邦光、大場一生、卜部繁俊、吉田 亮、大仁田賢、村上和成、小林隆志
2. 発表標題 ヒト感染アニサキス症における種の同定と臨床症状との関連の検討
3. 学会等名 第86回 日本寄生虫学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 飛弾野真也, Christoph Konradt, Daniel P. Beiting, 神山長慶, 小林隆志, Christopher A Hunter.
2. 発表標題 トキソプラズマ脳炎におけるアストロサイトの感染防御機構の解明
3. 学会等名 第25回分子寄生虫学ワークショップ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinya Hidano, Christoph Konradt, Daniel P. Beiting, Lothar Hennighausen, Serge Fuchs, Anita A. Koshy, Naganori Kamiyama, Takashi Kobayashi and Christopher A Hunter.
2. 発表標題 アストロサイトのSTAT1シグナルは、トキソプラズマ脳炎のコントロールに重要である。
3. 学会等名 2017年度生命科学系学会合同年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Naganori Kamiyama, Ryusuke Soma, Shinya Hidano, Benjawan Saechue, Nozomi Sachi, Kaori Noguchi, Takashi Ozaki, Akira Sonoda, Yoshiko Gendo, Yuki Eshita, and Takashi Kobayashi,
2. 発表標題 Ribavirin inhibits Zika virus (ZIKV) replication in vitro and suppresses viremia in ZIKV-infected STAT1-deficient mice
3. 学会等名 2017年度生命科学系学会合同年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 尾崎貴士, 園田光, 玄同淑子, 野口香緒里, 佐知望美, 神山長慶, 飛弾野真也, 石井宏治, 柴田洋孝, 小林隆志
2. 発表標題 Inhibition of TLR9-induced dendritic cell activation and pro-inflammatory cytokine production by Oleylethanolamide, whose level is reduced in MRL/lpr mice
3. 学会等名 2017年度生命科学系学会合同年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 尾崎 貴士 , 後藤 亮, 園田 光, 広瀬 晴奈, 玄同 淑子 , 野口 香緒里 , 神山 長慶 , 飛弾野 真也 , 石井 宏治 , 柴田 洋孝 , 小林 隆志
2. 発表標題 新規脂質メディエーターのOEA及びPEALは、Toll様受容体9 (TLR9) 刺激による樹状細胞とB細胞の活性化を抑制する
3. 学会等名 第8回 癌・炎症と抗酸化研究会 (CIA研究会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nozomi Sachi, Shinya Hidano, Naganori Kamiyama, Kaori Noguchi, Takashi Ozaki, Akira Sonoda, Yoshiko Gendo, Takashi Kobayashi
2. 発表標題 Analysis for the induction and pathophysiological role of CCL20 in the intestinal tissue
3. 学会等名 2017年度生命科学系学会合同年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mitsuko Hasegawa, Shinjiro Hamano, Mihoko Kikuchi
2. 発表標題 Sharing the experiences of soil-transmitted helminth elimination in Japan to contribute to developing elimination strategies.
3. 学会等名 The 13th Nagasaki-Singapore Medical Symposium / Leading Program International Symposium 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Evans Chadeka, Sachiyo Nagi, Toshihiko Sunahara, Ngetich Cheruiyot, Felix Bahati, Shinjiro Hamano
2. 発表標題 Spatial Distribution and Risk Factors of Schistosoma haematobium and Hookworm Infections among Schoolchildren in Kwale, Kenya
3. 学会等名 The 13th Nagasaki-Singapore Medical Symposium / Leading Program International Symposium 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1 . 発表者名 Sharmina Deloer, Risa Nakamura, Mihoko Kikuchi, Masachika Senba, Taeko Moriyasu, Eman Sayed Mohammed, Shinjiro Hamano
2 . 発表標題 IL-17A may help to persist of Entamoeba histolytica by keeping antagonistic relationship with Th1 response in animal model of intestinal amebiasis.
3 . 学会等名 The 13th Nagasaki-Singapore Medical Symposium / Leading Program International Symposium 2017 ( 国際学会 )
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Taeko Moriyasu, Risa Nakamura, Richard Culleton, Shinjiro Hamano
2 . 発表標題 Pre-existing Schistosoma mansoni infection dampened sporozoite-induced malaria liver burden
3 . 学会等名 The 13th Nagasaki-Singapore Medical Symposium / Leading Program International Symposium 2017 ( 国際学会 )
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Risa Nakamura, Sharmina Deloer, Kazuyo Moro, Shinjiro Hamano
2 . 発表標題 Type 2 innate lymphoid cells exacerbate severe amebic liver abscess in mice.
3 . 学会等名 The 13th Nagasaki-Singapore Medical Symposium / Leading Program International Symposium 2017 ( 国際学会 )
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Dinesh Mondal, Shinjiro Hamano, Debashis Ghosh, Abdul Alim, Md. Golam Hasnain, M. Mamun Huda, Moshtaq Ahmed Mural, Md. Shakhawat Hossain, Jorge Alvar, Byron Arana, Jose Postigo, Daniel Argaw, Greg Matlashewski, Be-Nazir Ahmed, Malcolm Duthie, Steve G Reed
2 . 発表標題 Risk factor for VL and predictors of relapse after treatment in VL.
3 . 学会等名 6 t h World Congress on Leishmaniasis ( 国際学会 )
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名	Md Hasnain Golam, Mohammad Shomik Sohel; Prakash Ghosh; Mamun Rashid Or; Md Hossain Shakhawat; Shinjiro Hamano
2. 発表標題	Dinesh Mondal: Post Kala-azar Dermal Leishmaniasis without previous history of visceral leishmaniasis: A case series on identification, confirmation, and treatment.
3. 学会等名	6th World Congress on Leishmaniasis (国際学会)
4. 発表年	2017年

1. 発表者名	森保妙子、中村梨沙、Richard Culleton、濱野真二郎
2. 発表標題	マンソン住血吸虫の先行感染がマラリア肝臓ステージに及ぼす影響
3. 学会等名	第86回日本寄生虫学会大会
4. 発表年	2017年

1. 発表者名	中村梨沙, Sharmina Deloer, 茂呂和世, 濱野真二郎
2. 発表標題	Type 2 innate lymphoid cells exacerbate severe amebic liver abscess in mice.
3. 学会等名	第86回日本寄生虫学会大会
4. 発表年	2017年

1. 発表者名	菊池三穂子、二見恭子、凧幸世、Evans A. Chadeka、原史絵、皆川昇、平山謙二、濱野真二郎
2. 発表標題	ケニア共和国、ビクトリア湖畔のマンソン住血吸虫症浸淫地における中間宿主Biomphalaria spp.のマンソン住血吸虫感染率について
3. 学会等名	第11回蠕虫研究会
4. 発表年	2017年

1. 発表者名 長谷川 光子、濱野 真二郎、菊池 三穂子
2. 発表標題 日本の土壌伝播蠕虫感染率調査 検便回収率と回収率向上要因
3. 学会等名 第11回蠕虫研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Risa Nakamura, Sharmina Deloer, Kazuyo Moro, Shinjiro Hamano
2. 発表標題 Type 2 innate lymphoid cells exacerbate severe amebic liver abscess in mice
3. 学会等名 第16回あわじしま感染症・免疫フォーラム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kijogi C, Kimura D, Bao L.Q, Nakamura R, Chadeka E.A, Cheruiyot N.B, Bahati F, Yahata K, Kaneko O, Njenga S.M, Ichinose Y, Hamano S, Yui K
2. 発表標題 Modulation of the immune responses by Plasmodium falciparum infection in asymptomatic children living in the endemic region of Mbita, western Kenya
3. 学会等名 第16回あわじしま感染症・免疫フォーラム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Risa Nakamura, Sharmina Deloer, Kazuyo Moro, Shinjiro Hamano
2. 発表標題 Type 2 innate lymphoid cells exacerbate severe amebic liver abscess in mice.
3. 学会等名 The 5th Annual Meeting of the International Cytokine and Interferon Society
4. 発表年 2017年

1. 発表者名	Sharmina Deloer, Risa Nakamura, Mihoko Kikuchi, Taeko Moriyasu, Yombo Dan Justin Kalenda, Eman Sayed Mohammed, Masachika Senba, Yoichiro Iwakura, Hiroki Yoshida, Shinjiro Hamano
2. 発表標題	IL-17A contributes to the decrease of IFN- /IL-4 ratio and the persistence of Entamoeba histolytica during intestinal amebiasis.
3. 学会等名	The 5th Annual Meeting of the International Cytokine and Interferon Society
4. 発表年	2017年

1. 発表者名	Taeko Moriyasu, Risa Nakamura, Sharmina Deloer, Richard Culleton, Shinjiro Hamano
2. 発表標題	Schistosoma mansoni infection suppresses the growth of Plasmodium yoelii parasites in the liver and reduces gametocyte infectivity to mosquitoes
3. 学会等名	第70回日本寄生虫学会南日本支部大会第67回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会 (2017)
4. 発表年	2017年

1. 発表者名	Taeko Moriyasu, Risa Nakamura, Sharmina Deloer, Richard Culleton, Shinjiro Hamano
2. 発表標題	Schistosoma mansoni infection suppresses the growth of Plasmodium yoelii parasites in the liver and reduces gametocyte infectivity to mosquitoes
3. 学会等名	グローバルヘルス合同大会2017
4. 発表年	2017年

1. 発表者名	濱野 真二郎
2. 発表標題	未来への礎をいかに築くべきか How should we lay the foundation for the future of tropical medicine.
3. 学会等名	グローバルヘルス合同大会2017
4. 発表年	2017年

1. 発表者名 Risa Nakamura, Sharmina Deloer, Kazuyo Moro, Shinjiro Hamano
2. 発表標題 Type 2 innate lymphoid cells exacerbate severe amebic liver abscess in mice.
3. 学会等名 第46回日本免疫学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 A.Sonoda, N.Sachi, Y.Gendo, T.Ozaki, N.Kamiyama, S.Hidano, K.Mizukami, T.Okimoto, K.Murakami, T.Kobayashi
2. 発表標題 combined administration of ampicillin and vancomycin induces mild colitis with decreased diversity of gut microbiota and perturbation of glutamine and short chain fatty acid metabolisms.
3. 学会等名 25th United European Gastroenterology Week
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 園田光、玄同淑子、尾崎貴士、佐知望美、飛弾野真也、神山長慶、村上和成、小林隆志
2. 発表標題 アンピシリンとバンコマイシンの投与によってグルタミン酸代謝と短鎖脂肪酸の発酵が障害され、マウス腸炎が誘発される。
3. 学会等名 2017年度生命科学系学会合同年次大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 濱野真二郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 熱帯病治療薬研究班	5. 総ページ数 111
3. 書名 寄生虫薬物治療の手引き	

1. 著者名 中込 治, 濱野 真二郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 663
3. 書名 標準微生物学 第13版	

1. 著者名 福井 次矢, 濱野 真二郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 2066
3. 書名 今日の治療指針 2018年版 [ デスク判 ]	

1. 著者名 James Cherry, Gail J. Demmler-Harrison, Sheldon L. Kaplan, William J. Steinbach, Peter J Hotez, Shinjiro H	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Elsevier	5. 総ページ数 3152
3. 書名 "Feigin, Cherry, Demmler, Kaplan: Textbook of Pediatric Infectious Disease, 8th edition "	

1. 著者名 濱野真二郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 682
3. 書名 第40章 寄生虫と宿主、第41章 原虫学、第42章 蠕虫学、標準微生物学 第13版	

1. 著者名 Hamano, S. and William A. Petri Jr.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 London	5. 総ページ数 3152
3. 書名 Chapter 209: Amoebiasis in "Feigin, Cherry, Demmler, Kaplan: Textbook of Pediatric Infectious Disease, 8th edition" Elsevier	

1. 著者名 濱野真二郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 2192
3. 書名 鞭虫症、今日の治療指針 2018	

1. 著者名 Hamano, S. Protozoan Diseases: Amebiasis. In	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Oxford: Academic	5. 総ページ数 6
3. 書名 Protozoan Diseases: Amebiasis. In: Quah, S.R. and Cockerham, W.C. (eds.) The International Encyclopedia of Public Health, 2nd edition.	

1. 著者名 濱野真二郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 3
3. 書名 リーシュマニア症、今日の治療指針 2017	

〔出願〕 計2件

産業財産権の名称 迅速・簡便なチクングニア熱診断に資するRT-LAMPの為の新規プライマーの発明	発明者 小林 隆志、神山 長慶、セーシュ ベ ンジャワン	権利者 同左
産業財産権の種類、番号 特許、2019-211123	出願年 2019年	国内・外国の別 国内

産業財産権の名称 ジカウイルス感染症治療用医薬組成物	発明者 小林隆志、神山長 慶、相馬颯介、飛弾 野真也	権利者 国立大学法人大 分大学
産業財産権の種類、番号 特許、2017-108007	出願年 2017年	国内・外国の別 国内

〔取得〕 計0件

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	濱野 真二郎  (Hamano Shinjiro)  (70294915)	長崎大学・熱帯医学研究所・教授   (17301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	モンダル ディネッシュ  (Mondal Dinesh)	国際下痢症疾患研究センター・the Nutrition Infection Interaction research unit・Senior Scientist	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------